

「創造への挑戦」紙の新しい可能性を拓く日本紙通商



日本製紙グループ

日本紙通商株式会社



王子製紙株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL03(3563)1111
http://www.ojipaper.co.jpを伝えるコミュニケーションには、
いつでも紙があります。人と紙の未来を見つめて 東京都中央区日本橋本町4-6-11 〒103-8841
日本紙パルプ商事 電話 03-3270-1311 (代表)
www.kamipa.co.jp

技術があるから夢がある

日本製紙パピリア株式会社

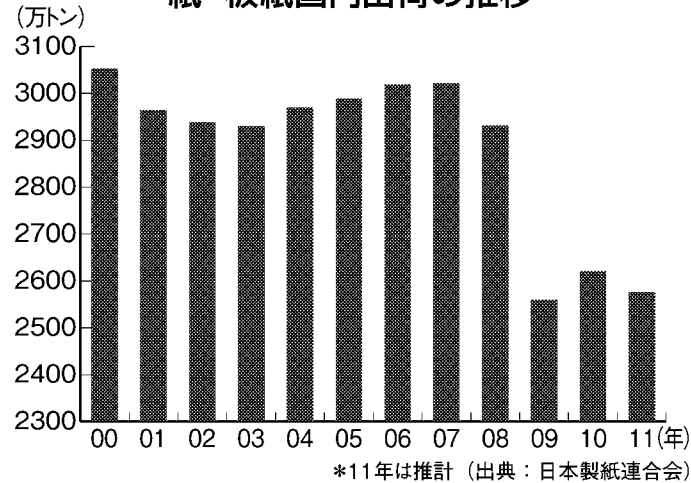
復興へ 着実な歩みを進める

紙・パルプ産業



王子製紙の社有林。左半分が間伐前、右半分が間伐後

紙・板紙国内出荷の推移



植林推進、道路整備も

未曾有の大災害を業界 きた製紙産業。だが、国
で協力し合い乗り切って 内紙市場は落ち込み、2

東日本大震災で大きな影響を受けた製紙業界だが、着実に復興の兆しを見せている。日本製紙グループは主力工場の石巻工場（宮城県石巻市）が被災したが、2011年9月に同工場の操業を再開した。その後、順次設備を稼働させている。同じ主力工場が津波の浸水被害を受けた三菱製紙の八戸工場（青森県八戸市）も5月から操業を再開し、11月には7台の抄紙機すべてを再稼働させ、完全復旧を宣言した。これら一部工場が操業を停止している間は、他工場や他社から代替供給をするなどし、業界全体で紙不足が起らないよう努めている。

板紙堅調 今年の紙需要は微増見込み

健全な森林育で持続的に利用

可能性は高いが、景気の先行きが不透明なことや電子書籍の台頭などにより大幅増は望めないでいる。また、円高を背景に安い輸入紙が流入している。製紙会社は11年に値上げをし、各社の経営者は「ほぼ浸透した」という。だが、このまま円高が続けば輸入紙の流入が増え、価格競争となり再び市況が悪化する懸念もある。各社は事業の成長を海外に求め、中国を中心とした新興市場の開拓を強化している。北越紀州製紙が中国に初の海外生産拠点を設け、13年から白板紙生産を開始する予定など、各社は今後も海外での事業拡大に積極的に取り組んでいく。紙を原料とした紙生産・販売事業をこれらも

持続していくために、製紙業界では環境保護に對してもさまざまな取り組みを行っている。例えば日本製紙グループは、新たな環境行動計画「グリーンアクション2015」を策定した。地球温暖化対策や森林資源の保護育成、資源の循環利用、生物多様性への対応などの目標を掲げ、15年度までの達成を目指す。持続可能な資源調達のため、製紙会社が以前から力を入れて取り組んでいるのが植林活動だ。王子製紙は国内700カ所、社内に社有林を所有し、面積は19万ヘクタールに達する。海外では24万ヘクタールの植林を行っており、15年までに30万ヘクタールを目標とする。日本製紙グループは海外植林事業「Tree Farm構想」を推進し、海

外植林面積20万ヘクタールを目指す。植林後に重要な役割が、森林の手入れだ。特に日本の森林のような場合、木が密集し、光が差し込まずに木の成長を妨げてしまっている。だが路網整備が遅れ、建設機械が山中まで入ることができず、森林の手入れが行き届かないことがある。樹木によっては50年程度で伐採期を迎えるのだが、伐採されず放置されたままであつたり、間伐材が山中に捨て置かれていたりすることもある。

そこで製紙会社は、社有林を核とし周辺の民有林とも協力して、作業道路の整備なども行っている。それによって間伐作業や間伐材の運搬を行いやすくし、健全な森林として育てている。

認証制度 保全に活用

また、持続的な森林利用を促進するために、きちんと管理された森林から生産された木材を用いて製品を作り、消費者に届けていることを第三者機関によって認証してもらう。森林認証制度は、森林の管理や伐採が環境や地域社会に配慮されているかどうか、流通・加工時に認証を受けていない林産物が混ざらないように

また、持続的な森林利用を促進するために、きちんと管理された森林から生産された木材を用いて製品を作り、消費者に届けていることを第三者機関によって認証してもらう。森林認証制度は、森林の管理や伐採が環境や地域社会に配慮されているかどうか、流通・加工時に認証を受けていない林産物が混ざらないように



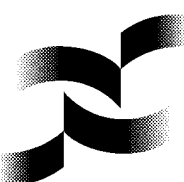
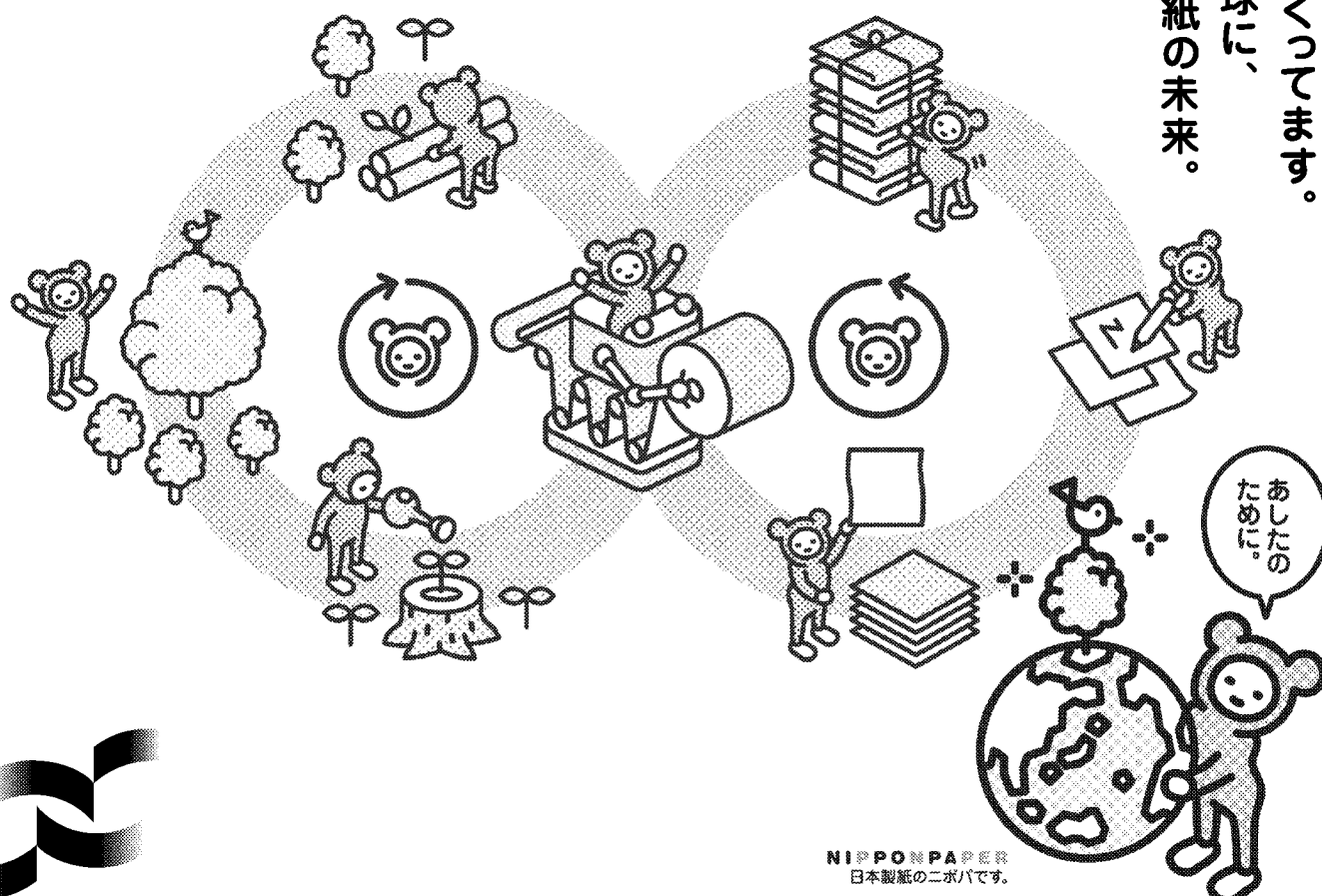
燃やすことができる。製紙会社は、この黒液に加え、パルプくずや木質がけきといった廃材をバイオマスエネルギーとして利用する。日本製紙グループは2015までは、化石エネルギー使用量を90年度比で30%の削減や、脱化石燃料を促進する設備技術の開発推進などを盛り込んでいる。

また、エネルギーの有効活用により、製紙会社が貢献したのが昨年の夏の電力不足対応だ。紙は大型の設備を用いて大量生産するエネルギー多消費型産業の一つであり、バイオマスエネルギーの活用とコストバランスから、製紙会社は自家発電設備を主な工場に設置している。これを用いて、余剰電力を電力会社に供給し、電力不足解消に役立とうと努めた。

森林資源は、木を植え、育て、伐採し製品化される持続可能な資源だ。この資源を守り、また無駄なく使おうと、製紙会社の取り組みはこれからも続く。

I'm ニッポン!

紙の未来へ日本製紙のモノづくり。

今日もつくっています。
人に、地球に、
うれしい紙の未来。

日本製紙株式会社

東京都千代田区一ツ橋1-2-2 〒100-0003
TEL.03-6665-1111 www.np-g.com/

「読む」「書く」「包む」など、紙は毎日の暮らしに欠かせない大切な素材。そして、自然の恵みである「木」を原料とする紙は「使ったら終わり」ではなく、再生が可能な循環型素材です。環境に配慮した“地球にやさしい紙づくり”を基本とする日本製紙は、時代の流れや用途に応じて「よりよい製品」へと紙を進化させています。

エリエール + Water

プラスウォーター

潤いティッシュ

毎日使える新



www.elleair-plus-water.com

大王製紙株式会社

高品質で応える

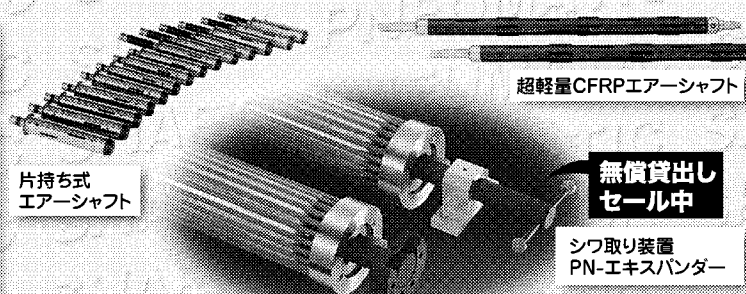
PNEUMATIC SHAFT

ニューマチック工業

検索

http://www.pneumatic.co.jp/

ニューマチック工業株式会社

本社 〒555-0043 大阪市西淀川区大野1丁目12番32号
TEL06-6475-1031 FAX06-6475-0880
E-mail: sales@pneumatic.co.jp

謹賀新年

本年も宜しくお願い申し上げます。平成24年 新春

